

ぜんしゅりきょう

2012
3月
March

通巻70号

平成23年度全国研修会東京で開催!!

平成24年2月22日、東京・日暮里のホテルラングウッドにて第2回全国研修会が開催され、全国各地から総勢90名が参加されました。
今回は①遣佛使報告会、②広報委員会 東日本大震災人材支援ボランティア報告、③仏壇公正取引協議会準備委員会の現状を主なテーマに行なっていました。



司会の吉田総務委員長

吉田総務委員長司会のもと小堀理事長の挨拶で第2回全国研修会が幕を開けました。

まず①遣佛使報告会。ニューリーダー部による平成の遣佛使報告として「土地の風習と信仰を求めて」をテーマに、京都・四国・沖縄・屋久島の四箇所で開催された調査や体験のユニークな報告会です。次に②広報委員会より東日本大震災人材支援事業と支援体験の報告。3月11日に発生した東日本大震災では多くの人命を奪い、生活基盤にも甚大な被害を及ぼしました。昨年12月、全宗協では被災地支援ボランティアを行なってまいりました。短期間の支援だけではなく、長期的視点に立ち、復興を支援していく事が大切と考え

ております。今回は支援事業についてと、ボランティア報告です。そして③仏壇公正取引協議会準備委員会の現状。今回は発足までの背景や経緯、そして今後の予定のご報告です。

小堀理事長挨拶

皆様、ご多忙にもかかわらずご参加いただきありがとうございます。この研修会は本年度2回目ですが、



小堀理事長

一回目は昨秋京都で開催しました。

「遣佛使」という新語が全宗協では定着してきました。先程、発表の予行演習をのぞきましたが熱気が伝わってきて、これから報告を聞くのが楽しみです。

その後、広報委員会より東日本大震災人材支援ボランティア活動報告がありますが、こちらは全宗協としては初めての試みで非常に意義深いものです。

本日のレポートをお聞きいただき少しでもみなさんのお仕事にプラスになればと思います。よろしくお願ひします。

ニューリーダー部 前田部長の挨拶

みなさんこんにちは。今ご紹介がありました遣佛使ですが去年の11月から12月にかけてましてNL部を4班に分け、京都、四国、沖縄、屋久島の4地域に派遣し、各地の「土地の風習と信仰」という共通の目的を持って、取材やお話を聞かせてまいり



ニューリーダー部前田部長

ました。

まず、こういう機会を与えていただいた親組合にお礼を申し上げたいと思います。また一つの組織を分けて、別々に行動してそれを発表しあう、つまり一回の研修で4回分の成果をあげようという初めての試みで少々心配でしたが、各班共事故・怪我もなく私の期待以上の成果を上げていただき感謝しております。そして今回の遣佛使のもう一つの目的である、地理的にお越しいただけないNL部員さんの所へ出向いてその方たちを取り込んでお助けいただき、一緒に活動できたのも素晴らしいかと思います。

非常に濃く、深い内容になっておりますので、みなさん期待してお聞きいただけたらと思います。

【目次】

P1	第2回全国研修会開催
P2	平成の遣佛使報告
P3	ニューリーダー部
P4	東日本大震災人材支援
P5	ボランティア報告
P6	仏壇公正取引協議会準備委員会の現状 次回ボランティア募集 花まつり 事務局からのお知らせ

遣佛使京都

2011年11月8日～10日

現地協力
メンバー

(株)若林佛具製作所	(株)小堀	(株)サンメニール氏	(株)大発	(株)こもりコーポレーション	(有)廣川仏壇店
若林智幸氏	小堀拓氏	石川卓氏	下村暢作氏	小森隆司氏	廣川俊輔氏



小森隆司氏、石川卓氏

遣佛使四国

2011年11月13日～14日

メンバー

(株)青銅社	(株)三村実本店	(株)小野屋漆器店	(株)吉田治市商店
石崎万里氏	三村竜也氏	小野健一氏	吉田光宏氏



石崎万里氏

親鸞聖人の京都での足跡を辿り、教えについてふれてまいりました。

親鸞聖人誕生の地、日野誕生院、法界寺。境内には得度を受けた時の親鸞童形立像や産湯の井戸、へその緒を納めたといわれる糸な塚などを見て親鸞の少年時代を偲ぶ事ができました。親鸞聖人がはじめて御仏さまとご縁を結ばれたのが法界寺の国宝阿彌陀如来坐像だと思われます。

次に天台宗の青蓮院。親鸞聖人が得度した時のエピソードがございます。

親鸞9歳の時、叔父、日野範綱と青蓮院を訪れますが、第3代門主慈円にその若さゆえに得度を断られました。しかし親鸞は「明日ありと思ふ心のあだ桜 夜半に嵐のふかぬものかは」という今という時の大切さを詠い、心をうたれた慈円は願いを聞き入れたそうです。

次に比叡山 延暦寺。数多くの名僧が厳しい修行に励んできた日本仏教最高学府。比叡山の教えは煩惱を断って悟りを開くこと、親鸞も20年間修行しましたが、煩惱を断つ事の難しさに直面し、ついに29歳のとき修行を断念し深い悩みを抱えたまま山を降りました。

次に六角堂と安養寺。

比叡山を降りた親鸞が聖徳太子ゆかりの六角堂を訪ね、自らの未来を切り開こうとし、95日目に救世観音よりお告げをうけたということです。

親鸞は自ら進むべき道を得、東山吉水で念仏の教えを説いていた法然上人の元にむかわれ、専修念仏の教えを聞き、阿彌陀仏の本願力に任せる事こそが極楽往生への道であると確信したそうです。

そして岡崎別院、こちらではNL部部員の株式会社若林佛具製作所様の若林智幸専務さまのご紹介で福田輪番様に浄土真宗の教えについてご法話をいただきました。

浄土真宗の教えは煩惱に満ち満ちた自分に気付くこと。煩惱をなくすのではなく、煩惱のある自分と向き合うということ。

そして蓮如上人往生の地、山科別院、親鸞聖人往生の地、角坊にも行ってきました。

最終日は西本願寺にて親鸞聖人 750 回大遠忌法要に参加し、満席状態で改めて親鸞聖人の教えが今も人々の心の中に生き続けているということを感じました。

法要参加後にNL部部員の小堀拓様のご案内で株式会社小堀様の本社の見学もさせていただきました。

僕自身勉強不足でありましたが、自分自身の宗派である浄土真宗、親鸞聖人に触れさせていただく大変良い機会になりました。

佛使報告

ニューリーダー部

まず四国は阿波の国、土佐の国、伊予の国、讃岐の国で構成されています。

よく四国88ヶ寺と言われますが、霊場と言われ、一番から八十八番まで番号がついています。一番から順番にまわることを順打ち、逆にまわることを逆打ちと言いますが、私達は1～六番まで順打ちでまわり、翌日は八十六番からまわりました。

霊山寺（一番さん）の山門の近くに大きな売店がありまして、白装束や錫杖など参拝に必要なものが売ってありました。そこから順番にまわり二番の安産祈願で有名な極楽寺では、安産祈願の方もいらっしゃいました。

三番の金泉寺、ここには有名な黄金の井戸があり、実際見せていただいたのですがどこまで繋がっているのか底の見えない井戸で、四番の大日寺は朱塗の楼門が目を引き静かで落ち着いたお寺でした。

五番の地藏寺、ここで我々4人は作法を勉強しました。

まず門前で合唱、一礼して境内へ。手と口を清めるということで順番があり、まず左手、右手、左手に水を取り口をすすぎそしてひしゃくの柄を清めます。

鐘楼堂で鐘を2回突き（社寺によっては突けない所もありますがこちらでは2回鳴らすことができました。）本堂に移り、納札を納め、蠟燭・線香・お賽銭をあげます。お賽銭の金額に決まりはないのが定説だそうです。次にお経を納めます。

そして大師堂で本堂と同じ事をし、納経所で証をいただき、山門に戻り門前で合唱・一礼で終わります。

そして初日の最後に六番の安楽寺さんに行ってまいりました。

天水鉢や絵巻など数多くの重要な金属製品を見ることが出来、すごいなあと嬉しくなりました。

場所を香川県に移しまして、八十七番の長尾寺に行きまして、ここは静御前が出家して尼となったという有名なお寺です。

最後に八十八番の大窪寺に行きました。頂上は標高約900mを4人で登りました。旅をともにした金剛杓と菅笠は結願の後、希望すればこちらに奉納できます。

今回、大変勉強になった楽しい旅をさせていただきました。



霊山寺（一番さん）門前にて

遣佛使沖繩

2011年11月30日
～12月2日

現地協力

メンバー

照屋漆器店 (株) 日本宗教学具店 (株) 木本佛具店 (株) 前田平俊氏 (株) 滝田哲也氏 (株) トモ工陶業店 (株)

新里悟氏 照屋慎氏 木本結氏 前田平俊氏 滝田哲也氏 可児錠二氏



滝田哲也氏

今回の研修は3本の大きな柱をもって学んでまいりました。

1.「お墓」敷地も大きく形も本土とはかなり異なる独特な形です。

なかでも目をひいたのが門中墓というお墓で、最大のもは1633坪あります。一族の方がお墓参りをするだけでなく中で宴会などを行う事もあるそうです。もう一つ独特の形が亀甲墓。女性の子宮を模したものでお墓の入口は産道にあたり、母体帰郷の思想からきているといわれています。

2.「仏壇、仏具、信仰」照屋漆器店さんに全面的にご協力をいただきお話をきいてまいりました。

沖縄仏壇が7割を占めていますが、チャージという材料で芯材はもみや杉が多く、これは高温多湿の沖縄の気候に合う独特の材料です。

仏具も独特で、上段は本尊ではなく沖縄の位牌「トートーメイ」を置きます。

そして沖縄には「おがみ」という独特の風習があり、山や海や自宅にも拝所という拝みを行う場所がありビンシーという仏具をお願いごとをします。

どの家庭にもビンシーはあり、貸し借りは禁止だそうです。

3.「お寺」真言宗の臨海寺様に行きました。

沖縄には100ヶ寺のお寺があり、初めに入ってきたのが真言宗、その後琉球王国が国家の修派を臨済宗としました。琉球八社という敷地の中に神社があるお寺もあります。

檀家制度が無く、琉球王朝時代に儒教を重視した薩摩が仏教をあまり沖縄に入れたくなかった為お寺さまが布教活動をしにくく檀家制度が浸透しなかったと言われています。そのためお寺さま所有の墓地がほとんど無く、収入源は葬儀と法事だそうです。

たいへん勉強をさせていただきました。ありがとうございました。



沖縄最大の門中墓

平成の遣

遣佛使屋久島

2011年12月7日
～12月9日

現地協力

メンバー

お安田東圭一郎氏 (株) 安田元慶氏 (株) 神戸伸彰氏 (株) 神戸伸彰氏 (有) 川本商店 (株) 日本宗教学具店 (株) 前田平八氏



安田元慶氏

屋久島ロケットツアーという名前で行ってまいりました。

屋久島は日本全国で9番目(北海道・本州・四国・九州を除く)の面積の島で、円形に近い五角形、1993年にユネスコの世界自然遺産に、姫路城、法隆寺、白神山地と共に日本初世界自然遺産に登録されました。

そして我々の商売にかかせない大切な材料の一つ屋久杉は、標高500メートルを超える山地に自生する杉で、樹齢1000年を超えるものを指しますが、屋久島は樹齢2000年以上の大木が多く、そのなかでも縄文杉、紀元杉、ウィルソン株の3つが代表的な屋久杉です。明治になるまでには良木のほとんどが伐採されて今に至ります。

縄文杉のトレッキングをしてまいりました。

往復で19.5キロ、標高差710メートル、片道5時間、往復10時間を歩きます。

中腹でウィルソン株という縄文杉に次ぐ大きい株があり、内部に入り空を見上げるとハートの形になっており、とても良いパワースポットで記念写真にも人気ということです。

また進みますと翁杉という大木もあります。そして登ること5時間、ようやく縄文杉に到着します。縄文杉は16.1メートル周、約30メートルの高さで、樹齢は約2500年とも3000年以上とも言われています。

屋久島の仏教と山岳信仰について。

法華宗の久本寺様に訪問しました。

古代では律宗、中世から法華宗、近代に浄土真宗が入ってきたと言われています。律宗の本山である唐招提寺を建てたのは唐からやってきた鑑真ですが、この鑑真が日本に入国する際に屋久島に1週間寄り、そこから律宗が広まったそうです。1488年に日像上人が屋久島に法華宗を広めました。律宗が根付いていたので人々の心もなかなか開かず苦労しましたが自ら山に登り南無妙法蓮華経を唱えたところ突然白い鹿が現れ日像上人を拝みやがて去って行き、当時起きていた様々な天災がおさまり島民も心を開き、法華宗が広まっていったといわれています。

このお寺ではご住職の渡辺智弘上人に色々なお話をうかがいました。これだけ法華宗が根付いている屋久島ですが、山岳信仰の根は仏教よりも深く各山頂には江戸期に建てた石塔が今もなお見られます。

鹿児島に戻り最終日にはお仏壇の千寿さんにお邪魔して店舗と本願寺の別院、鹿児島資料博物館のご案内をしていただきました。

屋久島は神の島といわれるぐらいで、縄文杉に辿り付く頃には空気が変わり震えがきました。島民がそれだけ山岳信仰をしているという理由もわかるような気がいたします。



歩くこと、登ること5時間、縄文杉到着！

社会貢献事業 第1回 東日本大震災人材支援ボランティア報告

事業内容

- 目的：被災地における行政の手が入らない個人宅等へのボランティアを実施する
- 作業内容：泥出・瓦礫撤去等
- 作業対象：宮城県石巻・南三陸ボランティアセンター紹介

行程

12月15日(木)	20:00	ホテル集合
	21:00	レクチャー(ボランティアの心得等)
16日(金)	6:30	ホテル出発
	8:00	石巻ボランティアセンター受付
	9:00	第1回 ワカメ養殖場の整理
	15:30	終了
	16:00	被災地視察一石巻漁港 訪問法話一浄土宗西光寺
	18:00	ホテル着
17日(土)	6:00	ホテル出発
	8:30	南三陸町ボランティアセンター受付
	9:00	第2回 ワカメ種付け・土嚢作成
	14:00	終了
18日(日)	8:00	ホテル出発 被災地視察一東松島等
	12:00	松島駅解散

参加者

川本 恭央	(有)川本商店
前田 平八	(株)日本堂
三枝 紀元	(有)三枝堂本店
中山 良一	(株)アド・インターフェース
田中 善治	(株)松栄堂
福原 大毅	(株)森正
細江 俊作	(株)森正
廣川 俊輔	(有)廣川仏壇店
吉田 光宏	(株)吉田治市商店
松下 広志	アルテマイスター(有)
石川友梨佳	アルテマイスター(有)
原 彩香	アルテマイスター(有)
池田 洋美	(有)小原仏具店
河野 諭香	(有)河野仏具
河野 弓深	(有)河野仏具

15日夕刻、仙台駅に到着後、大型免許を所持する川本リーダーが自らハンドルを握り、マイクロバスで松島へ向かいました。ホテルでは、メンバーの顔合わせとボランティアの心得などのレクチャーがあり、被災地へ初めて入る方も多かったため、真剣に聞き入っていました。16日、支援1日目は石巻へ。ワカメ加工工場の木箱の移動・整理作業を行いました。メンバー同士のチームワークも素晴らしく、予定通り作業を完了しました。その後、西光寺へ伺い、ご住職から貴重な法話を頂戴しました。

2日目、前夜からの雪で一带は真っ白です。慎重な運転で南三陸町へ向かいました。信号も点灯しない現地の光景を目の当たりにして、全員言葉を失ってしまいました。鉄骨のみが残る防災対策庁舎で献花・焼香を行い一同、犠牲者のご冥福をお祈りいたしました。そして、志津川漁港へ移動。漁師さん達の指導でワカメの根付け作業とワカメ・牡蠣養殖に使用するアンカー用土嚢作りの作業でしたが、2日目も無事完了。南三陸ボランティアセンターへ戻るとたくさんのボランティアと現地の方々の交流によるそれぞれの笑顔が印象的でした。最終日は東松島等の被災地視察後、松島駅で解散し、今回の事業を全て終了いたしました。

石巻道路沿いに掲げられたのぼり旗



移動・整理終了した木箱の前で依頼主の方を囲んで

線内の9倍が浸水したということです。全宗協(広報委員会委員長 木本隆久)では「ありがたいのはみんなの力」ということでこの桜をモチーフとしたキャラクターで今後支援を行います。第1回は、12月15日～12月18日、延べ33名で石巻・南三陸に行かせていただきました。

事前学習は、被災された方にとっては、被災地ではなくわが故郷・わが町、ガレキではなくわが家、ゴミでなくかけがえのないもの、そういった心によりそうボランティアの心構えをレクチャーさせていただきました。初日は石巻のわかめ工場の木箱2000箱の移動です。休憩時間には被災者のご夫婦から暖かい味噌汁や漬物をふるまってください、当時の色々なお話をいただきました。私たちが多くの宝をいただきました。感謝です。

夕方、浄土宗の西光寺さんにも伺い、ご法話をいただきました。



広報委員会
副委員長
川本 恭央 氏

東日本大震災、世界で4番目の震度で現在も数千の方が行方不明です。今回の震災はとにかく津波の被害で90%以上の方が水死されました。東北全体で山手

～宗教用具を扱う者として
心によりそうボランティアを～

当時お寺のお墓の上には製紙工場の紙と車と住宅が約2m積み重なり、2か月間は遺体捜索で、撤去してようやく今の状態になったそうです。ご遺骨はまだ入っていないものも含め本堂に骨壺が70個近く安置されていました。

この地区では今では遺体がみつかるとおめでと、やっと生きている者が一歩前に進める、法要やお葬式をあげられるというお話をいただきました。

そして、絆は糸が半分と書きます、努力をしないと切れてしまう、ご住職は被災して初めて日本人はいかに病氣や震災にあった時に繋がりが大切かということをお話としてわかったと反省、宗教者としての今後の役割を自覚したといわれました。

2日目は南三陸で養殖いかだの土嚢(60kg)を作る作業と、わかれの根付けをさせていただきました。機械が流されて全てこれを手作業です。明るい漁師さんの笑顔が印象的でした。

浸水した所以外は復興しています、しかし、南三陸、陸前高田ではすべてが浸水しており、復興はまだです。

今回、多くの方にご参加いただきまして無事に事故もなく終わらせていただきました。

「ありがとうはみんなの力」、これからも全宗協として永くこの支援活動を行なっていきます。これからも足を運びます。わたしたちは、忘れません。

第2回も会員、従業員の方のご参加、又、参加できなくても支援金という形での参加もお願いいたします。



再建中の西光寺本堂にて



3トン分の砂利で60kgの土嚢を500袋作りしました



雪道を慎重に進む



南三陸町防災対策庁舎での献花・焼香



ワカメ加工工場でご馳走になりました

ボランティアに参加して
 仏さまに関わる仕事をしている
 自分達の役割について



(有)小原仏具店
 池田洋美さん

まず初めに参加させていただいたことに御礼申し上げます。
 昨年の12月16日〜17日の二日間、宮城県石巻市と南三陸町でボランティアに参加させていただきました。震災から9ヶ月が過ぎて

いまだに始末のガレキは撤去され道路も通れるようになっていきましたが、実際に自分の目で見る被災地の様子は報道とまったく別物で、大勢の人たちが日常を暮らしていたことを想像することが困難の何もない景色で、言葉がみつかりませんでした。石巻では被害の大きかった地区に近い浄土宗西光寺までご住職のお話を伺うと共にお参りもさせていただきました。

復興とは程遠いと思えるような大変な環境のなかでそれでも私達が出会った方々は驚くほど前を向いておられました。しかしその一方で震災当初何万人と訪れていたボランティアの方々も日に減っているのに不安を感じているのだとも話しておられました。状況が改善されたという事もあるのですが、報道される時間も少なくなり日本中の人が震災前の生活を取り戻していくなかで忘れられていく気がして寂しいのだそうです。



全国から寄せられた復興支援のメッセージ・南三陸ボランティアセンターで

この1年間、被災地でご家族を亡くされた方や東北出身の方のご注文をいただく事も多く、大切な人を亡くし、家や仕事も失って先の見えない混乱の中にもありながらも位牌を作り仏壇を用意して故人や仏様にまず手を合わせようというそんな気持ちこそ、本当に尊いものなんだと思うようになりました。そして、仏さまに関わる仕事をしている自分達の役割について考えさせられました。ボランティア一人の力など太平洋に握りの砂を撒いたにすぎない、という言葉がきいたことがあります。ただ、震災直後のまだ未曾有の状況からガレキが撤去され道路も通れるようになっていた事実は、小さな砂の一粒一粒の結実の間違いないのです。あれから1年、わたしの生活はすっかり震災前に戻りました。しかし気持ちのなかでは忘れる事なく、例えばボランティアに参加する、コンビニでお釣りを募金、東北の特産品を購入するといった一握りの砂を撒き続けたいと思います。どんなに小さいことであっても、日々の生活のなかで絶対に震災や被災地のみなさんのことを忘れてはいけません。

仏壇公正取引協議会準備委員会の現状と予定 —— 発起人代表 小堀賢一氏

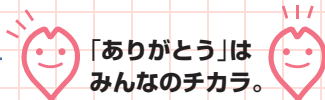


まず経緯ですが、背景に販売不振と競争激化によるお客様からのクレームの増加があります。全宗協では平成7年に仏壇公正競争規約を一旦承認しています。平成22年には経済産業省から、仏壇業界では消費者からの苦情が多発しているため、改善するようにと、全宗協と全仏連に申し入れがありました。

平成22年9月、東京をスタートに全国6箇所で開催された公正競争規約についての説明会を開催しました。同時に準備委員会をたちあげ会員を募りましたところ現在登録数は約870社です。また、準備委員会のなかから27名の方に発起人になっていただき、規約案の検討をかさねました。

一方、経済産業省主催で、京都大学の山本先生を座長に、研究会とワーキンググループが開催され、消費者団体からのご意見も聴くことになりました。一例として唐木仏壇で業界の常用語である「練り」が、一般にはわかりづらいので「張り」への変更を求められました。多方面からの検討と変更を積み重ね今の規約案になっています。

今後の予定として、パブリックコメントを経て消費者庁から公正競争規約の認定を受けます。その後もう一度発起人会を開催し、5月16日に仏壇公正取引協議会の設立総会を予定しています。協議会には、総務委員会 規約委員会 広報委員会 不正取引対策委員会を設けることで準備を進めています。ぜひご予約いただければと思います。



第2回 東日本大震災人材支援ボランティア募集

当組合では東日本大震災で被災された方々に対する災害支援ボランティアの募集を行います。

被災地を襲った震災の爪あととは1年が経った今も残ったままです。実際に現場を見てみると、未だ瓦礫の山がたくさん残っており、被災地はまだまだ復興とは程遠いのが現実です。被災された方々が新たな気持ちで復興への第一歩を踏み出せるよう、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：平成24年4月20日(金) 20:00集合 松島駅～22日(日) 14:00 松島解散

場所：宮城県 ＊支援先においては先方の要望を考慮して変更もあります。

内容：被災地において行政の手が入らない個人宅のボランティアを行います。作業内容：泥出・瓦礫撤去
1回のボランティアは3時間で、今回は2回行います。途中、休憩も入ります。

服装：長靴（鉄ソール）・手袋（油脂対応）・ヘルメットor帽子・上下の雨天用かっぱ・ゴーグル・軍手
服装は個人で用意していただきます。7,000円程度（購入される方は必ず川本広報委員会副委員長へ事前にご相談ください）

条件：重い持病のある方はご遠慮ください。ご家族のご承諾を頂ける方（現地には余震があります）年齢制限はありませんが、全てが自己負担、自己責任がおえる方に限ります。

期限：平成24年4月6日(金)まで

申込先：全日本宗教用具協同組合 TEL. 03-6206-0413

問合せ：川本恭央 携帯 090-4935-1536

4月8日は「花まつり」

会員の方に先日ポスター、絵ハガキを送らせていただきました。

追加ご注文の方はこちらまでお問い合わせください。

（頒布価格：ポスター1枚50円

〈絵ハガキは全宗協事務局までご相談ください〉）

財団法人全日本仏教会 広報文化部

TEL.03-3437-9275 FAX.03-3437-3260

<http://www.jbf.ne.jp/>



- 在庫がなくなり次第、予告なく申込みを終了する場合があります
 - お申込みいただいても、受付できない場合があります
- ポスターお申し込みはこちら<http://www.jbf.ne.jp/2012/02/24.html>

※尚、ポスターは残部少となっておりますので、ご注文の方はお早めにお問い合わせいたします。

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

- ・平成24年4月20日(金) 役員会、委員会 東京 情報オアシス神田
- ・平成24年5月22日(火) 第25回通常総会 高知県・三翠園
- ・平成24年6月20日(水) 役員会、委員会 京都メルパルク

2. 組合員数

平成24年3月12日現在 374名

- ・新規加入者 平成23年11月3日以降

- ①(株)金宝堂 仲村和明様(1月18日)
- ②(株)田中仏具店 田中衛様(3月12日)

3. 組合関係者の訃報 (平成23年11月19日)

(東海地区)
(株)井上仏具(井上喜代子様) 社長ご母堂 1月3日 88歳

4. 仏壇仏具ガイダンスの改訂版が5月に出版予定です。

ご利用くださいますようお願いいたします。

